



第24回山階芳麿賞 記念シンポジウムを開催します

- ・ 第24回山階芳麿賞の岡ノ谷一夫（おかのや・かずお）博士（帝京大学特任教授・東京大学名誉教授）への贈呈を記念してシンポジウムを開催します
- ・ シンポジウムのタイトルは「鳥の歌が拓いた音声コミュニケーションの科学」

公益財団法人 山階鳥類研究所は、第24回山階芳麿（やましな・よしまろ）賞の岡ノ谷一夫（おかのや・かずお）博士（帝京大学特任教授・東京大学名誉教授）への贈呈を記念して、下記のとおり、記念シンポジウム「鳥の歌が拓いた音声コミュニケーションの科学」を開催します。

山階芳麿賞は、日本の鳥学および鳥類保護に顕著な功績のあった者（団体を含む）をたたえ、わが国の鳥学の発展ならびに鳥類保護の振興に寄与することを目的として、1992（平成4）年に山階鳥類研究所財団設立50周年を記念して設けたものです。主催は公益財団法人山階鳥類研究所、株式会社朝日新聞社が共催しています。

このシンポジウムにつきまして、貴媒体にて取り上げていただけますようお願いいたします。

第24回山階芳麿賞 記念シンポジウム「鳥の歌が拓いた音声コミュニケーションの科学」

ジュウシマツは、日本で長く飼い継がれてきた小鳥です。その祖先はアジア南部に分布する野鳥コシジロキンパラで、日本人が100年以上にわたり飼育・選抜してきた結果、独自の飼鳥として定着しました。祖先種のさえずりは比較的単純ですが、ジュウシマツの歌は、複数の音がさまざまな順序で組み合わせられる複雑な系列構造をもっています。山階芳麿賞を受賞した岡ノ谷一夫博士は、このジュウシマツの歌を手がかりに、発声学習、コミュニケーション、そして言語の進化を考える研究を進め、国際的に高く評価されています。本シンポジウムでは、岡ノ谷博士と研究グループの歩みをふりかえり、小鳥の歌の研究から、ヒトの音声コミュニケーションと言語の成り立ちを考えます。

- ・ 日時：2026年9月12日（土） 13：30～16：00（開場12：30）
- ・ 場所：東京大学弥生講堂（東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内）
- ・ 参加費：無料（申込み不要） ・ 定員：300名（先着順）
- ・ 講演：「ジュウシマツ研究40年」岡ノ谷一夫
「ジュウシマツ原種コシジロキンパラの野外研究」香川紘子（株式会社スタートライン）
「ジュウシマツと原種の遺伝子比較」戸張靖子（麻布大学）
「ジュウシマツと原種の歌発達学習」高橋美樹（理化学研究所）
「家畜化症候群とジュウシマツ」鈴木研太（日本医療科学大学）
「ジュウシマツ研究から考える音声コミュニケーションとヒト言語の起源」岡ノ谷一夫
- ・ 共催：朝日新聞社 ・ 後援：我孫子市（予定）

本件についてのお問い合わせ先：

公益財団法人 山階鳥類研究所（千葉県我孫子市高野山115） 電話：04-7182-1101
担当：広報 山岡（E-mail：pressrelease@yamashina.or.jp）



第24回山階芳磨賞 受賞者について

岡ノ谷一夫 博士 おかのや かずお

1959年7月16日 栃木県生まれ
専門：生物心理学

- 1983年 慶應義塾大学文学部社会・心理・教育学科卒業
- 1989年 メリーランド大学大学院心理学研究科生物心理学専攻修了、Ph.D.
- 1989年 日本学術振興会特別研究員・上智大学博士研究員
- 1990年 科学技術庁科学技術特別研究員・農林水産省農業研究センター鳥害研究室兼任職員
- 1993年 井上科学財団特別研究員（井上フェロー）・慶應義塾大学心理学研究室訪問研究員
- 1994年 千葉大学文学部助教授
- 2004年 理化学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー
- 2010年 東京大学大学院総合文化研究科教授
- 2022年 帝京大学先端総合研究機構教授
- 2025年 帝京大学先端総合研究機構特任教授



岡ノ谷一夫博士
(帝京大学特任教授・東京大学名誉教授)

【主な著書】

- 『岩波科学ライブラリー92 小鳥の歌からヒトの言葉へ』（岡ノ谷一夫 2003 岩波書店）
- 『さえざり言語起源論』（岡ノ谷一夫 2010 岩波書店）
- 『言葉はなぜ生まれたのか』（岡ノ谷一夫・石森愛彦 2010 文藝春秋）
- 『言葉の誕生を科学する』（小川洋子・岡ノ谷一夫 2011 河出書房新社）
- 『「つながり」の進化生物学ーはじまりは、歌だった』（岡ノ谷一夫 2013 朝日出版社）
- 『脳に心が読めるか』（岡ノ谷一夫 2017 青土社）
- 『人間の心がわからなかった俺が、動物心理学者になるまで』（岡ノ谷一夫 2025 新潮社）

【受賞】

- 2001年 American Psychological Association 米国心理学会・最優秀比較心理学論文賞 「鳥類の音声知覚」の論文に関して
- 2009年 日本科学技術ジャーナリスト会議・科学ジャーナリスト賞 書籍「ハダカデバネズミ」の出版に関して
- 2009年 中山人間科学振興財団・中山賞大賞受賞 「言語の生物学」への貢献に関して
- 2011年 日本動物行動学会・第1回日高敏隆賞受賞 「動物行動学関連の著作・講演活動」に関して
- 2012年 財団法人ニューロクリアティブ研究会・創造性研究褒賞 「脳と創造性に関する基礎的な研究」に関して

【その他】

- 2008年 日本学術会議連携会員
- 2012年 Evolang IX 言語の起源と進化に関する国際会議・大会長
- 2017年 読売新聞読書委員
- 2022年 JCoLE 言語の起源と進化に関する3学会国際合同会議・大会長
- 2023年 IBAC2023 生物音響学国際会議・大会長